

令和5年度 学校評価計画書

加賀市立片山津中学校

校長 山下 悟

評価の項目	①-1 教育課程・学習指導
今年度の重点目標	学習サイクルを確立し学習意欲を高める。
具体的取組	各学年と教科担当でその学年にあった家庭学習の取り組み方法を示し、継続して取り組ませる。プランニングタイムを通して、学習計画を立てることにより、学習の習慣化を目指す。また、各種たよりや懇談会などの場を通して、保護者の協力を求める。
担当	教務主任・各教科代表
現状及び取組状況	学習習慣が身につけている生徒と身につけていない生徒の二極化傾向にある。全体でも家庭学習の時間が少ない。
評価の観点	(成果指標) 家庭での学習が習慣化した生徒が増えた。
実現状況の達成度判断基準	学習・生活アンケート(生徒②)で 「家庭での学習時間が1時間以上の生徒」が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満
判定基準(備考)	Dの場合は、取組を再検討する。
中間集計結果(%)	D(62.7%) ※62.0%(R4, 12)
分析 (成果と課題)	成果 1, 3年生の65%以上が、1時間以上の家庭学習をしている。(1年生69.4%, 3年生64.1%) 特に3年生は昨年度12月以降の伸びが大きい。(R4.12月:51.0%) 課題 2生では54.9%と低く、二極化傾向に変化が見られない。
今後の改善策	P Tに対して学習委員会を活用するなど、生徒が主体的に参画する機能の構築を模索して行く必要がある。
最終集計結果(%)	
中間結果との差(%)	
分析 (成果と課題)	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	①-2 教育課程・学習指導
今年度の重点目標	個人を十分に把握し、個別最適な学習の方法を確立し学習意欲を高める。
具体的取組	生徒の実態を把握し、学び合いに加え、ICTを効果的に活用し、生徒が「わかった・できた・もっと知りたい」と感じる授業実践を行う。また、授業のユニバーサルデザイン（UDL）化、個人の定着度・理解度を鑑みた単元内での自由進度学習にチャレンジする。
担当	研究主任・教務主任
現状及び取組状況	生徒の実態に応じた実践をしているが、さらに生徒の「わかった・できた・もっと知りたい」を引き出す工夫が必要である。
評価の観点	（成果指標） 授業が分かりやすく、学習意欲が向上した。
実現状況の達成度判断基準	教科アンケート（生徒⑦）で 「先生の説明や質問、指示はわかりやすかった」（全教科の平均）が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満
判定基準（備考）	Dの場合は、指導法を再検討する。
中間集計結果（％）	A(91.7%) ※95.1%(R4, 12)
分析 （成果と課題）	成果 UDを全授業で継続して行うができています。 また、ICTを活用し、視覚的に学び、情報の共有をできています。 課題 1年生のICTの活用のパーセンテージが低い。
今後の改善策	継続し、行っていくこと。 1年生の授業でも積極的に使用していく。
最終集計結果（％）	
中間結果との差（％）	
分析 （成果と課題）	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	② 生徒指導 ※いじめの未然防止
今年度の重点目標	情報の共有から行動実践へとつながる生徒指導体制を確立する。
具体的取組	「生徒指導委員会・各学年会」や生活ノートの記述、各アンケートや面談からの生徒の行動・言動より見取れる小さな気付きなどから情報を収集・共有し、組織的な対応を心掛ける。また事例検討会や校内研修等を通して指導体制を常に見直していく。
担当	生徒指導主事（生徒指導委員会）
現状及び取組状況	情報の共有から指導体制へとスピード感をもって対応・対応ができるように取り組んでいる。
評価の観点	（成果指標） 情報の共有がなされていたか。 情報の共有から方針・指導体制につながったか。
実現状況の達成度判断基準	教職員アンケート（教師②）で 「問題行動時の組織的対応の体制が整っている」が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満
判定基準（備考）	Dの場合は、方法・内容を再検討する。
中間集計結果（%）	A(100%) ※100%(R4, 12)
分析 （成果と課題）	成果：問題行動時の情報の共有はきちんとなされている。生徒指導委員会の情報についても各学年会などで報告されている。 課題：今年からWEBQUとなり、その周知をきちんと行い、窓口だけでなく、全教職員がWEBQUを見れるようになると良い。現在は各学年の先生が自分の学年は見れるようになっている。
今後の改善策	これまで同様に丁寧な対応を心がけ、先生方の情報の共有はもちろんのこと、保護者との連絡も丁寧に行っていきたい。（家庭連絡・家庭訪問等）
最終集計結果（%）	
中間結果との差（%）	
分析 （成果と課題）	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	③ キャリア教育・進路指導
今年度の重点目標	系統的な指導と、自分の将来を考えた進路選択をする能力・態度を育成する。
具体的取組	特別活動を扇の要として、総合的な学習の時間は勿論、全教育活動を通してキャリア教育を行うための全体計画を作成し、3年間を見通した指導を推進していく。
担当	進路指導主事・各学年進路担当
現状及び取組状況	1年生では、人間関係作り、就労の意義、2年生では、進路と職業の選択、3年生では既習事項をさらに深めるために、夢授業やライフプランニングを通して、自分にふさわしい進路、職業、人生設計について考える。
評価の観点	(成果指標) 様々な活動を通して自分の将来について意欲的に考える生徒が増えた。
実現状況の達成度判断基準	学習・生活アンケート(生徒③)「将来の夢や目標を持っている」が、 A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満
判定基準(備考)	Dの場合は、指導体系・方法を再検討する。
中間集計結果(%)	B(81.9%) ※75.0%(R4, 12)
分析 (成果と課題)	成果 2, 3年生は肯定意見が80%を超えている。特に3年生は昨年60%であったことから、進学を意識した結果であるといえる。 課題 1年生は75%と他学年および昨年度の1年生より低い。
今後の改善策	1年生に関して、今後キャリアパスポートを活用するなどして意識を高めていく必要がある。
最終集計結果(%)	
中間結果との差(%)	
分析 (成果と課題)	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	④ 保健管理
今年度の重点目標	基本的な生活習慣を定着させる。特に歯や口の健康づくりや睡眠時間の改善を図る。
具体的取組	生徒保健委員会の活動で、正しい生活習慣に関する知識を広め、母親委員会との協力で家庭との連携を考えていく。また、学校保健委員会等で家庭・地域と情報を共有し、基本的な生活習慣の定着につなげる。
担当	保健主事
現状及び取組状況	むし歯の治療率は年々高まってきているが、春の検診で再びむし歯になっている生徒が多い。またTV・ゲーム・ネットなどで睡眠時間が少なく体の不調を訴える生徒がいる。
評価の観点	(成果指標) むし歯の治療率が向上したか。
実現状況の達成度判断基準	歯科検診でむし歯があった生徒の治療率が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満
判定基準(備考)	むし歯治療済みカードの回収率。 C・Dの場合は、取り組み方を検討する。
中間集計結果(%)	D 44.4%
分析 (成果と課題)	成果 治療勧告をしてから夏休みに入るまでの治療がほとんど進んでいない状況であった。対象生徒の保護者へ再度通知し(懇談会で)、8月18日現在40%をこえたところである。8月中に受診する予定の生徒が多くいるため、8月末の結果に期待したい。 課題 夏休みに入る前までの治療が少ないことと3年生の治療率が悪い。
今後の改善策	受診をしない生徒への個別指導(歯と口の健康について・受診の大切さについて)と保護者への受診の依頼
最終集計結果(%)	
中間結果との差(%)	
分析 (成果と課題)	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	⑤ 安全指導
今年度の重点目標	校内の避難経路の確保と日頃の安全管理に務める。
具体的取組	校内の危険箇所を把握した避難訓練，更にいろいろな場面を想定した避難訓練の実施。さらに防災教育に取り組むことで，自身の命は勿論，大切な人の命を守るための行動をとれるようにする。
担当	教頭・防災安全担当
現状及び取組状況	校内の危険箇所を把握していながらも，その解決にまでいたっていない。
評価の観点	(成果指標) 安全点検によって危険箇所が改善されているか。 また適切な防災教育が行われたか。
実現状況の達成度判断基準	教職員アンケート（教師③）で 「職員が安全点検を行い，危険箇所が改善された」が， A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満
判定基準（備考）	C・Dの場合は，方法・内容について再検討する。
中間集計結果（％）	A(82%) ※94%(R4, 12)
分析 (成果と課題)	成果 安全点検は年3回を計画し，1学期の点検は管理責任者を中心に行っている。また，防災教育においては，地震からの火事を想定し消防署とともに取り組むことができた。3年生の修学旅行では阪神淡路大震災の現地に行き，展示や体験を通して学習することができた。 課題 日々の点検で緊急な改善を必要とする危険箇所などは，速やかに報告し改善してきているが，以前より確認している箇所については予算の面からも全て改善することができていない。
今後の改善策	安全点検からの危険箇所や変化等を細かく把握する。 生徒主体の防災学習を進める。
最終集計結果（％）	
中間結果との差（％）	
分析 (成果と課題)	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	⑥ 特別支援教育
今年度の重点目標	校内委員会を月に一回程度開催し、情報交換や生徒理解に努め、3層支援を通して生徒一人一人の状況を把握し、個を対象とした効果的な支援方法について検討する。
具体的取組	SWPBSについて校内委員会や研修会を通して、全教職員で共通理解・共通行動を図る。学年会や生徒指導委員会、教育支援員、SC、専門相談員等と連携してより具体的に個々の支援の方法、内容、変容効果について検証し、実践していく。
担当	特別支援コーディネーター（生徒支援委員会）
現状及び取組状況	事例検討会や校内研修会を開催し、支援の方法を検討している。
評価の観点	（成果指標） 生徒は学校が楽しいと感じているか。
実現状況の達成度判断基準	学習・生活アンケート（生徒⑩・②）で 「学校に行くのは楽しいと思う」と「先生はあなたのよいところを認めてくれている」が、 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満
判定基準（備考）	一方でDの場合は、原因を分析し、取組を検討する。
中間集計結果（%）	B（88.3%，89.4%） ※85%（R4，12）
分析 （成果と課題）	成果 達成度はB（85%以上）に分類されるが、88.3%、89.4%と高評価となっているといえる。 課題 評価としては高いが、アンケートに現れない本当の気持ちを普段の生活の様子から読み取っていく必要を強く感じる。
今後の改善策	ふれあい面談週間の活用や、教育支援員との情報交換を密に行い小さな変化を見逃さないようにしていく。
最終集計結果（%）	
中間結果との差（%）	
分析 （成果と課題）	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	⑦ 組織運営・業務改善
今年度の重点目標	教員一人一人が学年担任制の意図を理解し、協働・協力できる職場環境の整備を通して教育の質と向上を図る。
具体的取組	学年担任制について校内研修会などを通して、全教職員で共通理解を図る。校務分掌をチームで分担し、効率化を目指す。
担当	業務改善チーム
現状及び取組状況	業務の属人化が解消されておらず、超過勤務時間が80時間を超える職員が数名いる。
評価の観点	(成果指標) 学年担任制を理解し、協働・協力して業務が行えているか。
実現状況の達成度判断基準	教職員アンケート(教師⑨)で 「学年担任制が業務改善に機能した。」の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満
判定基準(備考)	C・Dの場合は、原因を分析し、次年度の校務分掌や業務内容を検討する。
中間集計結果(%)	B(76%) ※昨年度類似項目74.7%(R4, I2)
分析 (成果と課題)	成果 学年担任制により、日常の担任業務に平準化が図られ、道徳や学活についても学年全体での当事者意識が高まった。 課題 見つかった課題に対してのスピード感ある組織的対応にやや不安が残る。
今後の改善策	生徒指導や保護者対応などに密な情報交換が求められる。
最終集計結果(%)	
中間結果との差(%)	
分析 (成果と課題)	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	⑧—1 研修 組織的アプローチ (3層支援体制の確立)
今年度の重点目標	生徒がわかった, できた, もっとやりたいと感じられるように学校規模での第1層支援を通じて, 第2・第3層支援が必要な生徒を洗い出し, 配慮を必要とする生徒に対しての支援の方法を協議し, 具体的支援を行うことで, 学習意欲と学力の向上を目指す。
具体的取組	生徒がわかったと感じる機会を増やし, 学習意欲と学力の向上を図るために, 各教科・領域・学年で工夫している内容を提案授業, 研究授業, 個別の指導計画等でわかる授業の実現を目指す。
担当	研究主任
現状及び取組状況	教科の枠を越えた授業研究を実施している。 生徒の学びが図られる環境をつくる, 授業規律の確立を行っている。
評価の観点	(成果指標) わかった, できた, もっとやりたいという生徒の学習に対する意識を高められたか。
実現状況の達成度判断基準	学習・生活アンケート (生⑰) で 「授業の内容がわかりやすい」が, A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%未満
判定基準 (備考)	C・Dの場合は, 原因を分析し, 次年度の研修内容を検討する。
中間集計結果 (%)	A(92.0%) ※92.3%(R4, 12)
分析 (成果と課題)	成果 第2層支援の生徒への手立てを意識してできていた。 課題 具体的にどのような支援を要するのかを全職員で共有する。
今後の改善策	LITALICOを使用し, 誰が支援しても同じ支援ができるように共有する。また, どのような支援がより良い支援になるか検討していく。
最終集計結果 (%)	
中間結果との差 (%)	
分析 (成果と課題)	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	⑧—2 研修 SWPBS + Swaton Company
今年度の重点目標	学校規模でのポジティブな行動支援によって、生徒一人一人の好ましい行動を引き出し、自己肯定感や主体性を醸成する。そのための学年担任制であることを教員が理解し行動する。また、その効果的な場面設定の一つとして、Swaton Company (生徒による会社の起業・経営)を設立する。
具体的取組	学年担任制の意図を共通理解し、SWPBSに努める。併せて保護者への協力も求めていく。Swaton Companyの設立元年である今年度は生徒会を中心に取り組んでいく。
担当	研究主任 生徒指導主事 教務主任
現状及び取組状況	SWPBSの共通理解・共通行動について脆弱な部分がある。
評価の観点	(成果指標) SWPBSが生徒の主体性を高めた。
実現状況の達成度判断基準	学習・生活アンケート(生⑩)で 「自分の考えを表現したい(行動したい)と思うようになった」が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%未満
判定基準(備考)	C・Dの場合は、原因を分析し、次年度の研修内容を検討する。
中間集計結果(%)	B(84.5%) ※R5新設につき、比較データなし
分析 (成果と課題)	成果 Good Behavior Ticketなどの配布により、正しい行動をすぐに称賛することも結果の要因として考えられる。SwCo.は7月から実動し、生徒の主体性がうかがえる。 課題 学年が下がるにつれ、アンケートの値が下がっている。
今後の改善策	表舞台に立ちほめる機会が多い3年生だけでなく、普段の生活からPBSマトリクスの指標に当てはまる行動を称賛していく。SwCo.への参加(運営)を通して、参画意識と自己肯定感の向上を求めていく。
最終集計結果(%)	
中間結果との差(%)	
分析 (成果と課題)	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	⑨-1 保護者，地域との連携
今年度の重点目標	情報公開を充実させ，保護者や地域の方との連携を深める。
具体的取組	学校の情報が滞らないように保護者は勿論，地域へも発信していく。
担当	教頭・情報担当
現状及び取組状況	HP，メール配信では7割程度しか情報や，学校の状況が伝わっていない。
評価の観点	(成果指標) 学校の取組が保護者に伝わったか。
実現状況の達成度判断基準	保護者アンケート（保護者①）で 「学校だよりや配信メール，HP等によって学校の様子が伝わった。」が， A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満
判定基準（備考）	C・Dの場合は，方法・内容について再検討する。
中間集計結果（%）	C(78.8%) ※78.8%(R4, 12)
分析 (成果と課題)	成果 学校だよりやHP等をこまめに配布・更新することで，保護者へ学校の取組を知らせている。 課題 アンケート結果は昨年度と同様で改善されていない。
今後の改善策	タイムリーに保護者へ取組が伝わるよう，コドモンの運用方法を全職員で確認し，丁寧な発信を行っていく。ペーパーレス化についても考えていく。
最終集計結果（%）	
中間結果との差（%）	
分析 (成果と課題)	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	⑨-2 保護者、地域との連携
今年度の重点目標	学校運営協議会の設立に向けて準備を行う。
具体的取組	学校運営協議会の設立に向けての会議や研修を進める。
担当	教務主任・教頭
現状及び取組状況	学校運営協議会設立元年であり、職員にも十分に周知されていない。
評価の観点	(成果指標) 学校運営協議会の準備委員会の進捗状況と協議会について職員に周知されたか。
実現状況の達成度判断基準	教職員アンケート(教師 ³³)で 「学校運営協議会について周知され、準備が進められた。」が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満
判定基準(備考)	C・Dの場合は、方法・内容について再検討する。
中間集計結果(%)	A(94%) ※88%(R4, 12)
分析 (成果と課題)	成果 学校運営協議会の人選から事務局の設立、学校ランドデザインを基にした方向性を確認できた。 課題 具体的な連携・協働体制の構築ができていない。
今後の改善策	地域づくり、働き方改革、地域総掛かりの子ども育成などの観点から、具体的な取組を模索する。
最終集計結果(%)	
中間結果との差(%)	
分析 (成果と課題)	成果 課題
次年度への改善策	

評価の項目	⑨-3 教育環境整備
今年度の重点目標	授業でのICT活用の推進
具体的取組	GIGA研修を行うことや、ICT機器の操作方法を理解し、授業で適切に活用できるように取り組む。
担当	GIGA担当者・教頭
現状及び取組状況	一人一台のPCが配備され、授業および朝礼等で使用はしているが、その使用には個人差があり、ICT機器の効果的な活用にはいたっていない。
評価の観点	(成果指標) アプリケーション指標項目10個のうち、いくつ授業で活用できるようになったか。
実現状況の達成度判断基準	教職員アンケート(教師③④)で 「アプリケーション指標の中で、授業でいくつ活用できたか」が、 A 6個以上の職員割合が80%以上 B 6個以上の職員割合が60%以上 C 6個以上の職員割合が40%以上 D 6個以上の職員割合が20%未満
判定基準(備考)	Dの場合は、方法・内容について再検討する。
中間集計結果(%)	B(71%) ※60%(R4, I2)
分析 (成果と課題)	成果 計画訪問に向けて日常的にアプリケーションを使ったため慣れがでてきた。全校集会をオンラインで行うなど学校全体でICTに前向きである。 課題 eライブラリ、ミライシードの活用が少ない。授業で黒板と同時に使うとタイムマネジメントが難しい。
今後の改善策	夏休みに、ミライシードeライブラリの研修を受ける。普段から使う機会を増やすように、分かる人が活用方法を教える。
最終集計結果(%)	
中間結果との差(%)	
分析 (成果と課題)	成果 課題
次年度への改善策	